

(ウ) 伝統的ものづくり人材育成県外派遣事業（金沢市）報告

＜出発日：10月8日(木) / 帰着日：10月10日(土)＞

＜ 行程報告 ＞

10月8日（木）午後、金沢市入り。

金沢市役所にてクラフト政策推進課東崎様より金沢市の伝統工芸やクラフトについての取り組み・補助金制度についてヒアリング→金沢の希少伝統工芸を集めた「クラフト広坂」、全国のショップやギャラリー、地元の生活工芸の作り手の展示を定期的に行う「モノトヒト」視察→市役所周辺の観光地（21世紀美術館、兼六園）を観光客目線で体感。夜は「金沢職人塾」、市担当者の皆さんとの懇親会。市と職人の信頼関係や職人同士のつながり、ネットワーク力を感じた。

10月9日（金）

午前「卯辰山工芸工房」視察。若手の伝統工芸従事者の育成についてヒアリング→ひがし茶屋街散策と金澤町屋職人工房の見学。工房開設補助等行政による補助金活用についてヒアリング。

午後、福光屋「酒造メーカーのショップでの商品の見せ方や商品展開について視察→「鈴木大拙記念館」→「今井金箔」団体客向けのワークショップのイントロのみ見学→「shop&アトリエ KIKU」→補助金についてのヒアリング、ショップとアトリエを併用し感度の高い顧客へのアプローチやしくみを視察→「factory zoomer」見学。クラフト作家の作品の展示販売など、作り手目線での工芸事情をヒアリング。

夜、高松からの派遣メンバーと懇親会、香川の工芸や地盤産業について話し合い、「さぬきものをまとめて出展したい」「瀬戸内国際芸術祭の顧客層をつかみたい」など次につながる検討を行う。

10月10日（土）

午前、休日の金沢駅周辺の観察、土産物店や観光案内所にて資料収集。

10回と継続している、「おしゃれメッセ」のイベントを視察。会場のしいのき迎賓館界限「かなざわくらふとマルシェ」見学→加賀手まりの「毬屋」手まりの生産体制やワークショップについてヒアリング→「まちなか共同工房」見学・貸主へのヒアリング。午後、帰途。

伝統産業や地場産業を支える若手が、みな同じ危機意識を持ち、それに対してどう考え、動いているか意見を出し合い再認識することができた。異業種間の交流の価値の高さを再認識でき、チームとして動けるネットワークの拡大をしていきたいと考える。芸術への意識が常に感じられる街にすることで、伝統的なものづくりも再認識され、後継者不足・職人不足がどのような状況・地域として考えてもらえるきっかけをたくさん作ることも必要と考える。まず、事業者同士がもっと高松の他の伝統的ものづくり等の魅力を知り、

語れるようになることが必須である。

| 項 目 | 概 要 |
|--------------------------|---|
| <p>学んできた ポイント・概要</p> | <p><見せ方・PR 方法等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つのエリアに、異業種だが、顧客ターゲットを同じとした製品を販売する小売や作り手が集まっているため、域内の横の連携が強い。見せ方については、切り口を変化させている。 ・英語が喋れるショップ等店員の配置 ・観光地周辺に、人を楽しませる場所・仕掛けがあり、小売りもセットで立地している。 <p><意識・教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の芸術の意識が高い(目が肥えている)。 ・伝統工芸に関する教育環境(習い事)等。 ・町全体・市民全体に金沢＝伝統工芸・クラフトの街という認識の根付き。 ・金沢ブランドという作り手の誇り・歴史を含め、語れる伝え手を自然と育成している環境がある。 <p><異業種ネットワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分業制という環境が他業種との連携が強い要因の一つ。 ・作り手が自然と出会える、店等の立地やイベントで横のつながりが形成できる機会が豊富。 <p><周辺的环境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の観光客を受け入れられ、体験できる場所の整備 ・インキュベーションルームを立ち上げる場合は、他の工芸施設等の広さや用途を調査した上で整備、募集が必須。 <p><行政補助金の活用・担い手育成について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金や環境整備を推進することによって、職人を学校や施設の設備や環境の整ったところで技術を磨くと、環境ありきの技術であり、創意工夫の部分が少ない。独立した時に設備等は買える余力はなく、厳しい現実となっている ・工房開設を利用して、2年間の期限により、退出を余儀なくされ、家賃補助の支援により運営できていたが、自己負担の拡大と根付いてきた場所の撤退は大きな痛手となる。期限付きによる厳しい現実。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・行政が身近であり、補助金等の情報がキャッチしやすい環境を作っている。情報窓口の明確化。 ・補助金活用者 7 割が県外出身者、うち 7 割が定住している状況。 <p>⇒作家や作り手がたくさんいる街、育ちやすい環境があることで、作家や作り手がさらに作家や作り手を呼ぶプラスの連鎖。</p> |
| <p>(個々) 自分自身のものづくりに生かしたいこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・金沢で出会った人とのコラボ商品を作りたい。 ・作り手の意識・視野の向上。 ・事業者間でのネットワークの活用。 ・担い手の受入先となれる事業者への成長。 |
| <p>(全体) 高松の伝統的ものづくりにフィードバックしたいこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・個々で販路開拓をするのではなく、いくつかの事業者でワンパッケージ化して1つの空間として売り出す検討。 【例】高松市の伝統的ものづくりの作り手、売り手、設計士や専門メーカーと連携し、ターゲットや目的やゴールイメージを明確にし、実行することが必須。原点回帰し、技術を生かしたものづくりが必要。】 ・県外で発信し、外から火をつける効果の検討 ・地場産品等があつまるイベントや他のイベントとを掛け合わず等仕掛けの検討 ・地域の人が、地域の産品を語れる教育やしぐみ ・大きなイベントを1発ではなく、継続的に実施可能な小さなイベントを継続して実施する必要性の検討。 ・観光客がわかりやすいようなマップ、帰ったあとも買える通販冊子、常設展示販売場所の必要性の検討 ・作り手・売り手の定住・移住に向けた取り組み |
| <p>その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開通後、東京への販路拡大の環境が変わった。 ・支援業種の幅が広い。 |
| <p>今後の派遣事業について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の一番お金の動く東京に他の地域がどのように売り出しているかを見るのも必要ではないか。⇒派遣先の検討 ・時間的な余裕をもち、体験自体ができるような設定が必要ではないか。 ・逆に香川に来てもらい、現状を見ていただいた上で、指導してもらったほうが内容の濃いものになるのではないか。 |